

## 第12回奈良県地域交通改善協議会 議事要旨

日時 令和8年2月16日(月) 14:00~16:00

場所 桜井市立図書館 研修室1

### 1. 挨拶(山下知事)

- ・人口が減少し、地域交通の維持が困難になる中、運行費の支援にとどまらず、路線の合理化なども図りつつ、最も良い地域交通のあり方の検討が必要
- ・昨年2月の協議会開催を手始めとして、今年度、実務者のワーキンググループを立ち上げ、市町村職員や交通事業者にご参画いただき、「広域的な幹線のバス路線」のあり方について地道に議論
- ・その検討内容は、各市町村の副首長が集まる幹事会で議論し、意見を集約。その結果を、本日の協議会において報告
- ・将来の奈良県の地域交通のあり方について、関係者が一丸となって検討を進めていくため、本日は良い案が出ることを期待

### 2. 議事

#### ○議題1 広域的なバス路線の維持・確保・改善に向けた取組の強化について

- ・事務局より資料1を説明
- ・意見交換

#### 【意見交換の主な内容】

- ・以前から交通事業者に独自の補助を実施し、住民生活のバス路線の維持に努めてきた。このたび県から北西部の路線についても下支えをしていくと方針を出していただいたということに関し、感謝。今後とも県の支援を受けながら、路線の維持に汗をかいていけたらと思うので、検討を進めていただきたい
- ・昨年来この路線の維持・確保に向けた議論の中で、協議会、幹事会並びに実務者検討ワーキングにおいて真摯な議論を重ねていただいたことに、感謝。今回ご議論いただいた路線維持の取組については、本県の公共交通ネットワークを将来にわたって持続可能なものにする第一歩であると理解。今後とも交通事業者として安全・安心の輸送サービスを確保すると共に、限られた資源を有効に使い、従来の枠組みにとらわれず、持続可能な地域コミュニティの発展に努めたい

#### ○講演 これからの地域のモビリティを考える視点

- ・呉工業高等専門学校 神田教授から資料2をご講演
- ・質疑応答

## 【質疑応答の主な内容】

- ・日本の公共交通は独立採算制を基本としており、世界的に見ても特異な制度である。本来は税財源も含めて公共として支える形が一般的ではないか。移動を支えることは経済活動の活性化につながり、駅周辺のまちづくりの見直しも含めて考える必要がある。また、国土交通省が提唱するクロスセクター効果（外出促進による健康増進や医療費抑制等）も踏まえ、交通を多面的に支える先進事例やチャレンジ事例があれば紹介してほしい。

→クロスセクター効果を理論的に算定するというよりも、「実際に人を動かす」取組を重視する地域が多い印象である。広島県庄原地域では、JR と高速バスが競合関係にある中で共通チケットを導入し、共同で外出を促す取組を実施しており、グッドデザイン賞を受賞している。また、一定エリア内を乗り放題とする定期券を導入し、中心市街地への来訪を促進した結果、利用者数・収入ともに増加し、中心部の活性化にも効果が見られている。福山市では2週間100円乗り放題の実証実験を行い、外出者数や日常利用者の増加を確認した。岡山や熊本などでも、理論値だけでなく実証データをもとに効果を検証する取組が進んでいる。

- ・運賃を半額にして利用者が2倍になれば価格弾力性は1だが、無料にしても必ずしも利用者が倍増するわけではない。価格政策のみで需要を喚起するには限界があるのではないか。マイカーは安価で便利であり、公共交通は競争上不利である。駐車場料金施策などにより得られた財源を公共交通へ回す仕組みも考えられるのではないか。先進事例があれば教えてほしい。

→100円乗り放題の取組では、平日昼間の利用増加が確認されており、継続することで消費刺激効果が一定程度見られる。車利用から財源を確保し公共交通へ還元する考え方は重要であり、今後進めるべき方向性である。一方で、駐車場を財源確保の手段として活用し、日常的な公共交通の財源にまで結びつけている事例は多くない。観光分野では駐車場収入を活用する例もあるが、普段使いの交通支援には十分つながっていない。公営駐車場などは制度設計上取り組みやすい可能性があり、今後の検討課題と考えられる。

## ○議題2 奈良県地域公共交通計画の改定について

- ・事務局より資料3を説明
- ・原案どおり承認

## 3. その他

- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部より資料4を説明

#### 4. 全体総括（山下知事）

- ・神田先生の「人が外出しなくなっている」との指摘や、「人が行きたくなる町を作れているか」との問題提起が強く印象に残った。社会の変化の大きさを痛感
- ・公共交通を取り巻く厳しい状況の中での地域輸送資源のフル活用という新たな視点
- ・路線バス、スクールバス、病院送迎車、ホテル送迎バス等の個別運行の非効率性への認識と一体化の有効性、行政主導による従来の枠組みを超えた発想の必要性の再認識
- ・首長のリーダーシップのもと、交通事業者及び住民の理解・協力を得ながら一体的に取組を推進していく

#### 5. 閉会